

小学生プログラミング 本場で県大会



最優秀賞に輝き、表彰を受ける塚本君＝29日、福井新聞社・風の森ホール

塚本君(6年)が最優秀

恐竜登場の迷路作成

「全国選抜小学生プログラミング福井県大会(福井新聞社、全国新聞社事業協議会主催、富士通福井支店協賛)のファイナルステージが29日、福井新聞社で開かれた。恐竜が登場する迷路ゲームを作った塚本瑛大君(森田小6年)が最優秀賞に輝いた。プログラミングに慣れ、より活用してもらおうと初めて開いた。県内の小学4～6年生から、自分たちの「まち」に将来あったら良いと思うものをプログラミングを使い表現した作品を募集した。ファイナルステージには

8人が参加。作品の内容や工夫した点、作ろうと考えた動機などを発表した。発想力、プレゼンテーションの説得力、プログラミングの技術力の三つの観点で評価された。

最優秀賞の塚本君の作品は、迫り来る壁から「フクイザウルス」を生き延びさせる迷路ゲーム。このほか、画面上に現れる新型コロナウイルスをワクチンを使って撃退するゲームや、クマ

の出没地を地図上に表示する作品などがあった。最優秀賞に次ぐ優秀賞には石渡晃希君(三室小6年)が選ばれた。来年3月に東京で開かれる全国大会への出場権を獲得

得した塚本君は「緊張したが、研究の成果が発揮できた。全国大会に向け、福井のいいところを発信できるようなアイデアを作りたいです」と喜びをかみしめていた。(塚本剛史)